

ワンダーランドがオープン

オンタリオ州のトロントから西北に三十キロほど離れたメープル市の近くに、総工費一億一千五百万ドル(約二百億円)という大遊園地「ワンダーランド」がこのほど完成、五月二十三日にオープンした。

世界でも最大級というこのアミューズメント・パークは、テーマ別に、「国際通り」「中世の国」「一九八〇年世界大博覧会」「ハンナ・バーバラの幸福の世界」「カナダ開拓時代」の五つにわかれている。今度オープンするのは最初の四つで、「カナダ開拓時代」は八二年五月に完成の予定。

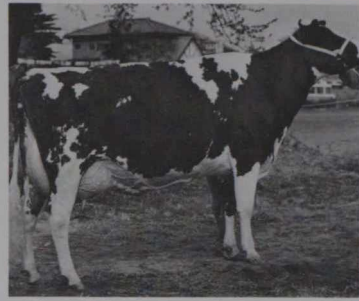
カナダ系の牛が上位制覇 全日本ホルスタイン共進会

日本ホルスタイン登録協会主催の第七回全日本ホルスタイン共進会が、四月中旬、群馬県前橋市で開かれ、カナダ牛を父牛とする牛が大活躍した。

まず未經産牛の部門では、第一部(十二月より十六か月)から第四部(二十四か月より二十八か月)までのうち、第三部を除くすべての優等賞第一位をカナダ牛を父牛とする牛が制覇、第五部から第八部までの経産牛部門では第一位をすべて独占した。

特に、四才以上、五才未満クラスに出場したハイローン・サイテー

ション・レッド(北海道の楠木英仁さん所有)が、経産部門の名譽賞を獲得したのは注目される。ハイローン号は三年前にはじめて登録が認められた赤白斑牛(レッド)。「早くも全共で最高の賞を得る(赤



名譽賞に輝いたハイローン・サイテーション・レッド

白斑)牛が現われたことは特筆されるよう」と全酪新報は述べている。第九部(父系牛群、経産)、第十一部(乳器、初産および経産)でも、カナダ牛を父牛とする牛が優等賞第一位をさらった。ハイローン・サイテーション・レッドは、乳器(二産以上)でも名譽賞に輝いている。

バンクーバーで国際交通博



カナダのバンクーバーで、一九八六年の五月から十月まで国際交通博覧会「トランスホ86」

が開かれる。これは、交通・通信が社会的、経済的、技術的に世界をどう変えてきたか、今後どう変えていくか、ということに焦点を当てようというもので、世界各国

の参加が見込まれている。

交通博のカナダ政府代表には、大阪万博や沖縄海洋博のカナダ館政府代表をつとめたバトリック・リード氏が任命されている。

イランからの米大使館員脱出 米加合作でテレビ映画に

一昨年十二月、テヘランのカナダ大使館にひそんでいた六人のアメリカ人外交官が、ケン・テイラー大使をはじめとする大使館員に助けられて無事イランから脱出したが、これが今度二時間のテレビ映画になる。カナダのCTVと米国のCBSによる合作で、テイラー大使(現在はニューヨーク総領事)にはカナダの有名な俳優ゴードン・ビンセントが扮する。題は「カナディアン・ケイバー」。来年の秋までには完成するという。

憲法問題、最高裁へ 六月始めに決着か

昨年の十月以来カナダの憲法移管問題について論議を重ねていた連邦下院は、四月二十三日、いったん審議を打ち切り、最高裁判所が政府案の合法性について判断を下したあとで最終決定をすることになった。

最高裁の決定は五月末または六月始めになると思われる。この決定が政府案を支持するものであれば、下院は二日間に限って最終的な審議をしたあとと票決に移る。下院の承認を得た政府案は英国議会の承認を得るため、ロンドンに送られる。

の承認を得るため、ロンドンに送られる。

ケベック党が圧勝 ケベック州の選挙

四月十三日に行われたケベック州の州議員選挙は、百二十二議席のうちレベック首相の率いるケベック党が八十議席を制して圧勝した。残りの四十二議席は、ケベック自由党(クロード・ライアン党首)が獲得した。解散時の議席は、ケベック党六十七、自由党三十四、ウニオン・ナシオナル五、無所属二、欠員二であった。今回の選挙では、これに十二議席が新たに追加された。

ケベック党は、一九七六年に初勝利を納めて州政権を獲得。昨年は「主権・連合」に関する交渉権を求めた州民投票で負け、また補欠選挙でも一回負け続けた。今度の選挙では「主権・連合」を次の選挙まで問題にしないと約束、レベック政権の経済政策におけるこれまでの業績を中心にして争ったのが勝因とみられている。なお得票率では、ケベック党の四九パーセントに対し、自由党が四六パーセントと伯仲していた。

人工の声帯を開発 喉頭がん患者に朗報

発声器官である人の声帯は喉頭にあるが、カナダの研究者がこの

ほど人工喉頭を開発し、ガンを声帯を失った人々に明るい話題となっている。

人間の声帯は二条のびんと張った靱帯からなる。肺から出される空気によって、靱帯がギターのように振動し、音を出す。この音が唇、舌、歯によって言葉に変えられるわけである。

医療研究者のジョン・フレデリクソンさんがトロント大学の生医学機器開発グループの協力で開発したのは、直径三・五センチの鋼鉄円盤。太鼓の皮のようにびんとして、ボケットに入れた電池ケースから送られる電気信号に反応して振動するようになっていて、この円盤を喉の裏側にとりつけると、声帯と同じ発声器官の動きをする。すなわち、振動によって音が発生し、それが口腔の形になっている言葉に変わるのである。

こうして発せられる声は、通常の声より平板で金属的であり、また声調もひとつしかないが、人が聞いてじゅうぶん理解できるといふ。大きさにいくらか難があつたが、重さ約三〇グラム、厚さ五ミリという改良型も今年末には希望者による実用実験に入る予定で、大きな期待が寄せられている。

訂正

前号十五ページの「新着図書」の中で、「カナダ商学史研究序説」の著者が豊原三治郎となつていますが、豊原治郎の間違ひでした。